

令和7年7月 28 日(月) 9:26～11:10

場所 裾野高校 会議室

静岡県立裾野高等学校 学校運営協議会議事要約

高橋智浩委員(裾野市社会福祉協議会)

小田圭介委員(総務省地域力創造アドバイザー)

志田忠弘委員(NPO 法人理事)

田口智美委員(PTA 会長)

学校側参加者:鎌田校長、大石副校長、芹沢教頭、岸本事務長

1 体験授業等の見学

見学内容は、5つの系列の体験授業では、教員による授業の他に高校3年生が中学生に教える交流や参加した中学生同士で課題に対し意見を出し合う活動をした。、交流会では本校在校生から中学生・保護者へ本校を選んだ理由等を説明を聞いた入り、系列紹介等のビデオ視聴をしたりした。

2 校長あいさつ

生徒の活躍(陸上競技部:ハンマー投 県大会出場、美術部:NHK 静岡県放送局賞)、後期生徒会役員の紹介(変化マップ:生徒がやってみたいことを聞き、解決方法などを共有する)、特色ある取り組み(ウーブンシティ講演会、沼津アスルクラロの試合のボランティア、校長通信)、助成金の受賞(はごろも研究助成賞、静岡教弘教育助成金:裾野市の御土産の開発、静岡県教育委員会所管の生徒が自ら企画し実現するドリーム・プロジェクト 2025:生徒が、静岡県をスポーツで盛り上げる企画、三島信用金庫:ボランティア部)、北駿地域新構想高校について説明した。また、裾野高校のウェブサイトの状況について近隣校と比較しトップページへのアクセスが多いことを紹介した。

3 意見交換(体験授業見学の感想を含む)

質問

小田委員:学校ウェブサイトの校長通信を読み終えた後に次の号へ自動的に移行できるとよい。

事務長: 技術的な改善を検討する。校長通信には小見出しを付けて探しやすくし、更新通知の登録も可能である。

議題

志田委員:生徒の積極的な姿勢に好感を持ち、系列ごとの授業を見学できたことが有益だった。介護福祉系列の実践的な授業や自然科学系列の高度な数学の授業に感心し、複数の系列を一人の生徒が体験できるとさらに面白い。

田口委員:生徒の活発さや挨拶の良さを評価し、福祉系列に所属する自身の子どもへの関心から授業を参観した。

小田委員：裾野市内の中学生の参加が予想より少なかったことに触れ、地元の生徒の参加促進を望む。また、体験入学に参加した中学生の身だしなみに関する懸念を示し、指導のあり方について問題提起。

高橋委員長：一日体験入学が生徒主体で運営されている点に感銘を受けたと述べた。以前は指示に従って活動していたが、現在は生徒が企画・実施しており、その成果が各種賞の受賞や研究費の獲得につながっている。学校説明では、裾野高校を選んだ理由を明確に語る生徒の姿勢に感動し、進路選択に対する意識の高さが裾野高校の存在意義を高めている。

活動計画の中間報告（副校長）

総務・図書課：五龍祭文化の部を 11 月実施に変更したことに伴い、終業式のオンライン実施。

教務・研修課：遠隔授業の準備。

生徒課：防犯カメラ設置による抑止効果。

進路課：五龍祭の時期変更による進学影響の検証、家庭学習の定着に向けた検討。

保健・相談課：朝食摂取率の低さへの対応、多様な生徒への支援（スクールロイヤー・精神科医・カウンセラー）。

総合学科キャリア教育推進室：探究活動の 3 年計画のブラッシュアップ、産業能率大学との連携。

高橋委員長：この活動が達成できるようにして欲しい。